

# 実況中継「土曜講座」

第6号

2023年7月10日発行

## 市川学園7月1日の土曜講座 於 多目的ホール

小松俊明先生

### 北欧スタイルから見えるヒント 縮小日本の新たな選択肢を考える

東京海洋大学グローバル教育研究推進機構教授



#### 小松俊明先生のご紹介

- 1969年 東京都生まれ
- 1992年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 1992年 住友商事株式会社入社
- 1995年 アジアで起業、求人情報誌を創刊
- 2008年 リクルーターズ株式会社設立、代表取締役
- 2012年 東京海洋大学グローバル人材育成推進室特任教授
- 2012年 サイバー大学客員教授（現職）
- 2016年 東京海洋大学グローバル教育研究推進機構教授（現職）

#### 主な講義内容の紹介

2023年7月の土曜講座は、東京海洋大学教授による、近年注目を浴びている北欧スタイルの生活から日本人は何を学ぶべきかについての講演でした。

北欧5ヶ国のうち4ヶ国は千葉県よりも人口が少ないですが、世界幸福度ランキングで上位を独占し、一人あたりの労働生産性も高い評価を維持しています。ワークライフバランスや労働生産性の低さが指摘されることの多い日本では北欧諸国を手本にしようという動きがありますが、残念ながらそのほとんどは失敗に終わっている、というのが現状です。なぜうまくいかないのか、それは日本と北欧諸国の環境やそれに基づいて形成された文化の違いを考慮せずに、表面的な模倣をしようとするからだ、というのが小松先生の分析です。日本がよりよい社会を目指すためにまず取り組まなければならないのは「ジェンダーギャップの解消」だ、と先生は仰いました。世界3位の経済大国である日本がジェンダーギャップ指数の評価では146ヶ国のうちの125位という位置に沈んでいるのは問題視すべき点であり、特に女性の政界進出が顕著な北欧諸国から学ぶところが大きいでしょう。

まずは男女がお互いに歩みよるところから、教室から始められることから皆で取り組んでいきましょう。

#### 受講レポートから

- 90分間があったという間だった。北欧には女性の首相がいることに驚いたが、人口の半分は女性なので首相が女性なのは何もめずらしいことではないと気付くとともに、日本には女性の政治家が少ないことに違和感を覚えていないことを痛感した。まず学校から変えていくというお話があったが、私は市川の入試で女子と男子の募集人数が違うことを受験期に感じていたので、これからの日本のためにも、市川に入りたい受験生のためにも、そこは変えてほしいと思った。(中1女子)
- 日本をよりよくするために北欧を参考にするとき、ただ北欧を真似するというだけでなく、内面的に北欧を真似することが大切だとわかった。また、政権の体制を見ると北欧に比べてジェンダーギャップが強く男女不平等な状態であること、男女不平等を解決するためには教室など身近な所から解決していくことが大切だと考えた。北欧の国々から学ぶべきことは、ジェンダー平等をどのように進めたのか、ということだと思う。(中2男子)
- 講義中、何回か日本との対比がされていてわかりやすかったです、また、IKEAなど自分たちに身近な所から北欧のことを知ることができました。男女平等は大人たちに任せるだけでなく、常に小さいところから意識することが大切だと思います。日本と北欧は相違点がたくさんあり、簡単に北欧のまねをすることができないという事実を知り、それは男女の平等が意識されていないことが原因だと思いました。北欧のことをまねするだけでなく、日本で取り入れてもっと進化させることがこれからの時代で大切だと思います。大学や仕事選びでもそのことを意識したいです。(中3女子)
- 私は北欧についてかなりアバウトなイメージを持っていたが、様々な角度から説明していただけて、北欧の国々が身近なものになったし、生活や政治をさらに深く知りたいと思った。福祉の面や克服土の面で北欧を目指すと言われていたが、ジェンダーギャップの大きい現在の日本の状況では難しいと知ることができたので、北欧の豊かさの理由を学ぶとともに、男女平等の実現のために何ができるかを考えたい。(高2女子)
- 以前教育問題について調べた際に北欧の制度が優れていると知り、日本でも取り入れたいけれど取り入れることができないのは価値観が違うからだと思いましたが、それ以前の問題として男女平等か否かがあることを知りました。全員が差別主義者ということは決して無いのに、日本が他国から差別の国と見られ、魅力的ではないと思われてしまうのは非常に残念です。しかし、男女平等が実現している国があるのだから私たちにもできるはず。日々の生活から意識していこうと思います。(高3女子)
- やはり北欧の国々は日本とは意識が大きく違うと思った。ニュースでも男女格差、差別をなくすための取り組みをよく聞かすが、かなり不足していると感じる。北欧のスタイルを取り入れて先進的に、かつこの先人口が減少しても持続可能な社会にするため、人々が幸福にこの国で生きていくためにもっとできることがあるのではないかと考えた。例えば話にもあったようにあらゆるものの男女比を50:50にすることなどは、少し制度を変えれば実現できると思うし、市川学園でもこれらはできることなのではないかと思う。(高3男子)

